

チガヤ (茅)

名前の意味：茅のカヤの意味。「ち」は、日本の昔の言葉。カヤはススキに^{いみ}にたイネ科の植物につける接尾語^{せつびご}（名前の最後につける言葉）。

分類：単子葉類、イネ科、チガヤ属
(イネ科の栽培植物^{さいばいしょくぶつ}：イネ、コムギ、トウモロコシ)

好きな場所：日当たりのよい空き地、土手、草原

分布：北海道、本州、四国、九州

原産地：昔から日本に生えていた（自生^{じせい}）

特徴：地面から出る長い葉、頑丈^{がんじょう}でなかなか^ぬ抜けない、白くてふさふさの穂^ほ、たくさんの白い毛のある実。

種子の運ばれかた：風に飛ばされる

花弁の数：離弁^{りべん}、2裂^{れつ}（小さくて肉眼^{にくがん}ではよくわからない）

花の時期：4－5月

食べ方：出たての穂は、軸^{じく}の付け根がほのかに甘く^{あま}、子供が遊びでかじった。

見分け方：ススキに比べると葉が短く、縁がざらざらせず、大きくならない。茎^{くき}は1本から数本ずつ生える。

見つけやすさ ★★

見分けやすさ ★★

総合難易度^{そうごうなんいど} ★★

(★が多いほど量が少なく、見分けにくく、難易度が高い)